

*横須賀を中心に近隣のみどころを紹介するコーナーです

ヨコスカ Discovery

ディスカバリー

第38回 衣笠から木古庭へ 三浦半島の古道を歩く

古代『古東海道』、中世『鎌倉道』、そして近世では『浦賀道』と位置付けられるこの古道は、各時代とも国の中心地とこの半島を結んでいました。今回のコースでは、江戸時代前期の庚申塔をはじめとする数々の石塔や三浦半島随一の滝といわれる不動滝、深緑の自然が楽しめます。(距離約5km、所要時間約2時間)

道標付馬頭観音塔

文政5年(1822)造立された馬頭観音塔で、台石に「右浦賀 左金沢」と刻まれている。道標付き石塔として葉山町の重要文化財となっている。



境地蔵

享保年間(1716~36)に建てられた地蔵尊で台座に「三界萬霊」と刻まれている。横須賀(阿部倉)では「境地蔵」と呼ぶが、葉山では地区の名称から「藪地蔵」と呼ばれる。



大明寺

三浦半島の日蓮宗派32ヶ寺の本山だった。江戸時代には16石の御朱印を幕府から与えられた名刹。本堂の裏手には太田道灌の子・資康の墓と顕彰碑がある。



おかん塚(おかんつか)

浦賀に奉行所が出来ると(1720)、お代官が籠で通れるように新しい坂道が造られ「御代官坂」と呼ばれた。これが変化して「御官坂」、「おかん塚」となったと伝わる。

ゴール

境橋バス停



瀧不動堂

三浦半島三不動尊の一つ。治承4年(1180)、畠山重忠が衣笠城を攻めるにあたり、戦勝を祈念し重忠の守本尊「不動明王」をこの地に祀ったと伝わる。



不動滝

高さは約5mで、古くから修験者が滝行に利用したといわれる。また、この滝は灌漑用水として大昔から木古庭の人々の生活を守ってきた。



伝馬場坂庚申塔

江戸時代に継立場があったので伝馬場坂と呼ばれる。平作七坂に数えられるこの坂の途中に、3基の庚申塔が安置されている。現在も年に一度庚申講が行われているという。



歩くときの ワンポイントアドバイス

このコースでは多くの庚申塔に出合えます。庚申信仰のことや庚申塔の特徴等を事前に知っておくと、より一層楽しく歩けるのかもしれませんが。